

職員研修 報告書・レポート

平成30年6月10日(日)

氏名：竹谷 知比呂

① 研修名：夢や希望を叶えるサポートプラン研修会

② 研修内容：

話題提供 一人の利用者の方へ策定するサービス利用計画、就業・生活支援センター
個別支援計画、福祉サービス事業所個別支援計画は繋がっている？

事例1 柿沼弘昭、鈴木浩江、濱淵麻友

事例2 金橋美恵子、大塚裕功、原田千春

講義 「本人主体の個別支援計画とは」

演習 個別支援計画の策定について

演習 策定から説明同意まで

③ 成果/感想：

SSTのアセスメントにも似た部分があり、利用者主体のプランを立てるための
手順が参考になった。ご本人の夢や希望に添う事で見えてくるものもあり、願望
に近づけるように計画策定をしていきたいと思った。

強み（ストレングス）を活かす事に着目する事はとても大切だと思った。

先の事や、将来の事を語れる事ができる事も、その方の強みであるという話
があり、改めて気付かされた。演習の中でも、自分では気づかないが、他者から
見ると強みに見える事があるという事を知る事ができた。また、活かすものを色々
と持っているという事にも気づくことができた。自分において考えた時に見えて
くるのだと実感した。

本人の意見を取り入れた時に、より具体化されたプランができ、支援の方法も
より希望に添ったものになると思えた。アセスメントの演習をした時に、ただ困っ
ている事を聞かれても、それを理解してもらえるのか？一緒に考えてくれるのか？
ただ聞いてみただけなのか？と少し不安になった。共感や同意をすることで、安心
につながる事、支援してくれる事で前向きになれるのだと感じた。

信頼関係を得るためには、利用者が興味を持っている事に自分も興味を持つとい

うことが大切であるという話が、仕事の中でも感じる事ができている。

④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

サービス利用計画を立てるときに、利用者の希望や意向を聞いてそれが実現できるものになるような内容である事を意識して作っていきたい。くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターぷれんからの計画をもとにサービス計画を策定し、利用する事業所等との連携を持ちながら利用者の希望に沿っているかという視点を持って仕事をしていきたい。困っている事を伝える、強みを伝えるという事は、どちらも簡単にできる事では無いと感じたので、ニーズを確認する時には、話しやすさや、話していただけるような質問の仕方などを考えて行きたい。

希望や目標の達成の為に、使える資源や環境が無いのか？活かせる環境はないのか？という事を忘れずに、計画作成していきたい。今後も各関係機関との連携、情報共有と利用者主体となる支援となる計画策定をしていきたい。